



お問い合わせ

株式会社 西武百貨店
店舗運営部環境推進担当

〒171-8569

東京都豊島区南池袋1丁目28番1号

西武百貨店池袋本店書籍館6階

電話 03(5949)3514

FAX 03(5949)3550

西武百貨店ホームページ

<http://www.seibu.co.jp/>

*トップページの「お問い合わせ」から、
インターネット経由でも
ご質問などをお受けしています。

表紙写真 吉野俊幸

高原に爽やかな風が通り過ぎる。

ゆったりとした時が流れる。

草原を埋め尽くした黄色い花のじゅうたんは

ハルサキヤマガラス。

野鳥たちのさえずりが、ひときわ明るくこだまする。

西武百貨店の関連会社であるハケ岳高原ロッジにて、

写真家・吉野俊幸氏が5月に撮影した作品です。

環境・社会活動報告書 2006

株式会社 西武百貨店

発行日 2006年7月31日

次回発行予定 2007年7月31日

前回発行日 2005年9月30日



本誌はエコマーク認定の
再生紙・大豆油インキを使用し、
再生可能です。



本誌は水なし印刷で印刷されています。
水なし印刷とは、
湿し水を使わない印刷技術のことで、
通常のオフセット印刷のような
有害な廃液を出さない印刷法です。

環境にやさしい、人にやさしい百貨店

CONTENTS

- 1 編集方針
- 2 会社概要
- 3 トップマネジメント・コミットメント
- 5 環境方針と中期目標

環境活動の歩みと成果

- 7 環境・社会活動の歩み
- 9 西武百貨店の事業活動と環境保全活動
- 11 2005年度の活動結果
- 13 2005年度 店舗の環境目標達成状況
- 15 2005年度環境会計
- 16 環境目標達成への歩み

環境マネジメントシステム

- 17 環境マネジメントの仕組みと運用
- 19 環境教育による環境意識の向上
- 20 社員の環境意識 全社員アンケートから
- 21 環境マネジメントシステムの点検と改善
- 22 ISO14001定期・移行審査報告

目標達成へ向けた取り組み

- 23 環境にやさしい店舗づくりと店舗オペレーション
- 25 環境にやさしい商品やライフスタイルの提案
- 27 人にやさしい百貨店として
- 29 お客さまの安心安全を守るために
- 30 従業員の働く環境
- 31 店舗の地域活動・社会貢献活動

【編集方針】

西武百貨店は1999年4月、百貨店業界で初めて国際環境規格ISO14001を取得し、その翌年2000年より環境保全活動の報告書を発行しております。2003年からは、『環境・社会活動報告書』として社会貢献活動も含めた報告書に改め、今回で通算7冊目の発行となります。2006年は環境側面を中心に社会的側面、経済的側面を含めご報告するとともに、99年からの活動を総括いたしました。

ISO14001の2004年規格改訂を受けて、今後、一層お客さまや地域とのコミュニケーションを強化し、皆様のご理解とご協力をいただきながら、小売業としての事業活動を通じて環境保全に努め、地元密着型企業である百貨店として、社会貢献に努めてまいります。そのためにもこの報告書を私どもの環境に対する考え方と具体的な取り組みをご理解いただく一助としていただければと考えております。

なお、本報告書は環境省『環境報告書ガイドライン(2003年度版)』を踏まえ「環境報告書作成基準案」に定められた基本的枠組みに沿って作成しました。

本報告書について、皆さまからたくさんのご意見・ご感想をお寄せいただくと幸いです。

本報告対象期間

2005年度事業年度(2005年3月～2006年2月)
* 一部2006年3月以降の報告と中期目標を含みます。

報告対象組織

ISO14001規格取得サイト
株式会社西武百貨店18店舗・全事業所
株式会社ミレニアムリテイリング商品本部、テナント本部、総務本部

報告対象分野

環境的側面・社会的側面・経済的側面

参考

環境省『環境報告書ガイドライン(2003年度版)』
環境省『平成15年度環境報告書基準委員会報告書』
経済産業省『ステークホルダー重視による環境レポートガイドライン2001』
GRI『GRIサステナビリティレポートガイドライン2002』

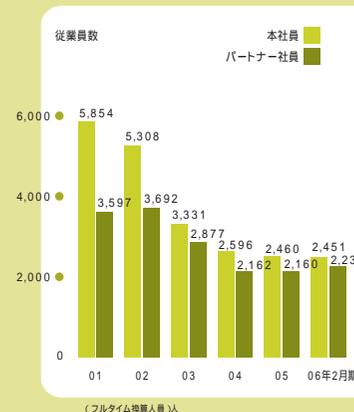
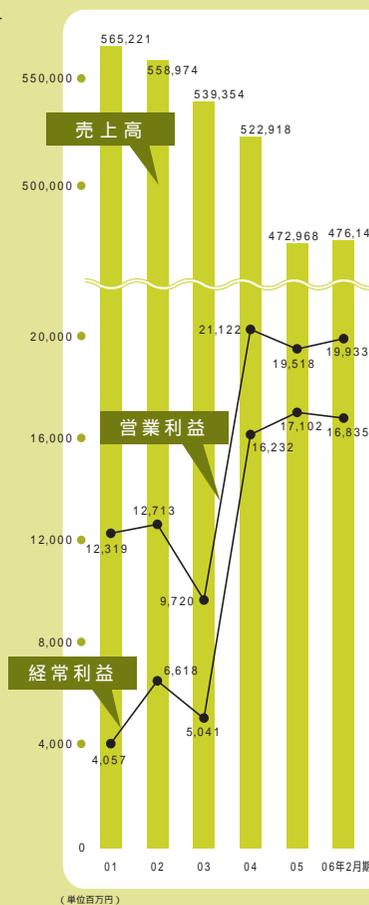
発行

株式会社西武百貨店

会社概要

株式会社 西武百貨店 (The Seibu Department Stores, Ltd.)

本社所在地 〒171-8569 東京都豊島区南池袋1丁目28番1号
設立 1940年3月14日
資本金 60億円(2006年2月末現在)
代表者 代表取締役社長 大崎文明
事業内容 百貨店業
店舗数 16店舗
Home Page <http://www.seibu.co.jp/>



株式会社 ミレニアムリテイリング (Millennium Retailing, Inc.)

本社所在地 〒100-0005 東京都千代田区丸の内1丁目1番2号 (JFEビルディング)
設立 1952年7月25日
資本金 349億41百万円(2006年2月末現在)
代表者 代表取締役会長 和田繁明
株主 (株)セブン&アイ・ホールディングス
Home Page <http://www.millennium-retailing.co.jp/>

(株)ミレニアムリテイリングは(株)西武百貨店の持株会社として本部機能を担い、4部門がISO14001サイトになっています。

環境への配慮を「当たり前のこと」とし「環境にやさしい、人にやさしい百貨店」として豊かな暮らしづくりに取り組みます。

株式会社 西武百貨店 代表取締役社長 大崎文明

増大する企業市民としての社会的責任

企業の事業活動の倫理性や社会的責任がますます厳しく問われているにもかかわらず、世の中ではその欠如を示すような事件が後を絶ちません。西武百貨店は、地域に根ざし地域とともに成長し続ける小売業として、行動基準の冒頭に「社会の一員として自覚を持って行動する」ことをあげています。

社会的役割の一端を担い地域貢献を果たすこと、公平かつ公正な行動により地域・社会から継続的な信頼を獲得すること、地域に根ざし社会に開かれた企業であることをめざしている私たちは、日々の活動、従業員一人ひとりの行動が間違いなくこの行動基準に則って行われているか、常に厳しく問いかけていかなければなりません。日々消費者の皆さまと接し、お客さまの豊かな暮らしづくりに貢献する企業として、私たちはお客さまや地域社会から継続的な信頼が得られるよう努力し、活動に取り組んでいます。

環境活動の取り組みとISO14001認証取得

西武百貨店は1990年代初めからいち早く環境問題に着眼し、社内環境ハンドブックを作成して省エネ・省資源に取り組み、包装紙や手提袋への再生紙の使用、簡易包装のお勧めや環境商品の選定と表示などを実施してきました。とりわけ、1999年に百貨店業界で初めて環境マネジメントシステム「ISO14001規格」認証をマルチサイトで取得してからは、同システムにのっ

りPDCAサイクルで着実に活動を推進してきました。この7年間でコピー用紙や包装資材などの紙類使用量はおよそ半分に、廃棄物の量は発生抑制とリサイクル率の向上で6割程度に激減しています。これは自分たちの地道な活動の成果のみならず、納品代行システムやハンガー納品などによるお取引先様のご協力や、簡易包装、環境配慮商品などに対するお客さまのご理解があった結果と認識しています。

ISO14001規格は2004年に改訂され、06年1月に新規格への移行審査も兼ねて定期審査が実施されましたが、指摘事項はなく、環境マネジメントシステムが適切に維持管理されていることが確認されました。



今後の環境推進のポイント「4つの柱」

昨年は京都議定書の発効を受けて、環境に関する社会的な関心も一層盛り上がり、クールビズをはじめとした新たな取り組みも見られました。当社もこれまでの活動を環境中期目標「4つの柱と9つの取り組み」に組み替えて、新たなフェーズで活動に取り組んでいます。

4つの活動の柱では、まず最初に「お客さまとのコミュニケーション」を掲げました。これは小売業、百貨店業という多くの消費者の方々さまざまな接点を持つビジネス特性をかんがみたと、環境保全について共に考え、ご理解いただく機会を設けることがきわめて重要であると考えからです。例えば「クールビズ」については、単に商品を揃えるだけでなく、ファッションショーを催してきちんと趣旨を説明するといったことも心掛けています。環境イベント・セミナーの開催は、各店で半年に1回以上と、数値目標を持って推進していきます。「社会・地域とのコミュニケーション」についても、これまでの取り組みをさらに発展させていくよう工夫を加えながら継続していきます。店舗外周の清掃美化活動は05年度、18店舗で計706回を数えました。池袋本店で「どんぐりの植樹活動」に協力して丸8年、回収した使用済みブリペイドカードや古切手の財団法人への寄付は5年目になります。04年9月からスタートした「盲導犬育成事業支援」にも、店頭募金と盲導犬ふれあいキャンペーン、社員募金制度と基金設立と、積極的に取り組んでいます。

もちろん地球温暖化対策や循環型社会の推進、省エネ・省資源の推進といった、基盤となる「環境負荷の低減と環境保全活動」についても手綱を緩めるわけにはいきません。特に今後、当社としても大型の店舗改装

が予定されているなか、廃棄物や工事車両の管理、リニューアルによる電力や水道、紙類の使用量などをしっかりとマネジメントしていくことが肝要と認識しています。

加えて「法令の順守やリスクマネジメントの強化」は環境問題のみならず企業存続の基本として、従業員教育とあわせて徹底的に取り組んでいきます。従業員の範囲が広く、関わる人々も多い業態ですから、継続的な教育も極めて重要な課題です。

環境活動定着・向上へ向けて

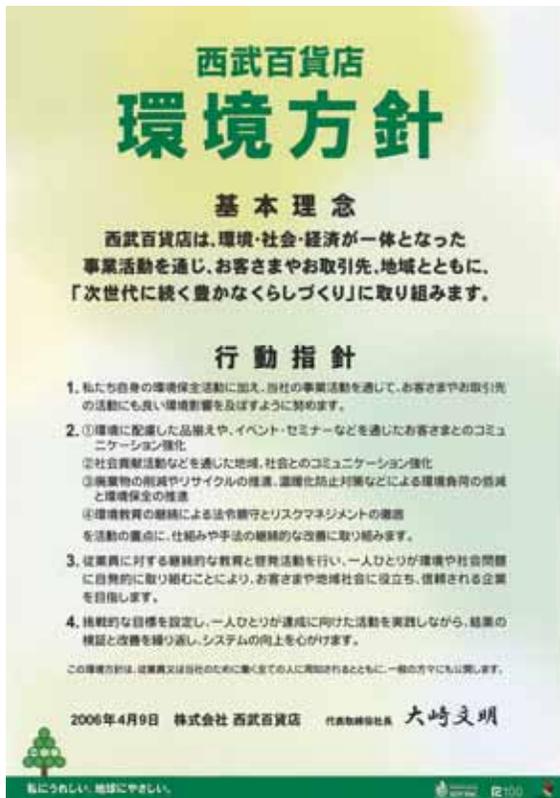
本年はISO14001の2004年規格改訂を受けて、当社の環境憲法ともいべき「環境方針」も見直しました。そこでは規格改訂の精神をきちんと踏まえるとともに、CSR(企業の社会的責任)やサステナビリティ(持続可能性)といった視点もしっかり盛り込んでいます。環境方針は当社の環境記念日である4月9日付とし、本年はこの日、自主的に全店でのライトダウンを実施しました。

21世紀は「環境経営の時代」ともいわれていますが、環境への配慮は「できて当たり前」になっていかなければなりません。従業員の環境保全意識は確実に高まっていますが、さらに定着・維持し、向上を図っていくためには、一人ひとりの主体的で積極的な活動が鍵になります。

西武百貨店は「環境にやさしい、人にやさしい百貨店」として、環境保全活動・社会貢献活動と経済活動が一体となった事業活動を目指し、「次世代に続く豊かな暮らしづくり」に取り組んでいます。

今後とも皆さまの一層のご指導、ご支援をお願いいたします。

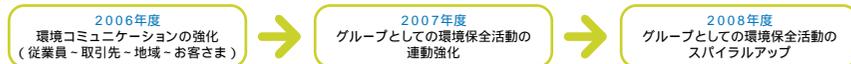
環境方針と中期目標



2006年4月9日に環境方針を見直しました 具体的な改訂ポイント

- 基本理念**
事業活動における経済と環境、社会活動の一体化を強めていきます。
- 行動指針**
1. 2004年改訂の趣旨をとらえた表現にしました。
2. 重点取り組み項目「4つの柱」と合わせました。
3. 教育の重要性と社会貢献に対する一人ひとりの自覚が信頼獲得につながることを明記しました。
4. 環境マネジメントのPDCAサイクルを明記しました。
・ 周知対象を拡大するとともに当社環境記念日4月9日を宣言日としました。

当社は1999年4月にISO認証を取得以降、2回の更新審査と規格改訂に伴う移行審査においても、不適合の指摘を受けることなく、着実に活動を推進してきました。これまでの環境推進活動の進捗と成果、お客さまや地域の方々の声を出発点としながら複合商業施設化をめざす今後の事業戦略も踏まえ、環境方針を見直すとともに、中期的な環境への取り組みと活動目標を策定しました。



環境・社会貢献活動の重点取り組み項目	具体的プログラム	06年度目標	07年度目標	08年度目標
4つの柱	9つの取り組み			
お客さまとのコミュニケーションの強化	環境商品の選定と提案	10品目の新規認定	10品目の新規認定	10品目の新規認定
	環境商材売上	40億円	40億円	40億円
	エコ包装の推進	エコバッグ 900万円	950万円	1,000万円
	環境イベントの展開・強化	簡易包装の推進 環境イベント・セミナー開催	前年比 0.3% 半期1回以上	前年比 0.3% 半期1回以上
社会・地域とのコミュニケーションの強化	地域との共生	店舗外周清掃 月2回以上	月2回以上	月2回以上
	店舗コミュニケーション	半期1回以上	半期1回以上	半期1回以上
	店頭募金および従業員募金制度継続			
	盲導犬ふれあいキャンペーン開催	年2回の開催	年2回の開催	年2回の開催
環境負荷の低減と環境保全活動の推進	「地球温暖化」対策	温室効果ガス排出量の把握と排出抑制に向けたプログラムの策定		
	電力使用量の削減	前年比 1%	前年比 1%	前年比 1%
	低公害車の利用拡大(社用車)	96.6%	100%	100%
	納品代行システムの利用拡大	取引先拡大に向けたプログラム作成と納品率再削減		
	廃棄物の削減	現状維持	現状維持	現状維持
	「循環型社会」の推進	リサイクル率の向上	現状維持(52%以上)	現状維持
コンプライアンスとリスクマネジメント	「省資源」の推進	紙類使用量の削減 前年比 1%	前年比 0.3% 前年比 1%	前年比 0.3% 前年比 1%
	水資源使用量の削減	前年比 1%	前年比 1%	前年比 1%
	順法とリスクマネジメントの強化	フロン管理 ・故障時、改装時に特定フロン使用機器を入れ替え ・フロン使用機器廃棄時に適正なフロン引渡しを実施 ・業務用冷蔵庫・冷凍機器の日常温度管理を徹底		
	PCB管理 ・保管、管理の徹底 ・行政処理計画にもとづき適正処理を実施 (PCB廃棄物保管店舗:池袋本店、渋谷店、札幌店、沼津店)			
	薬品管理 ・保管、取り扱い手順の順守 ・安全教育の実施(業務委託先を含む)			
	テナント管理(環境教育) ・テナント従業員への環境教育・指導の徹底 ・新規出店テナントの環境対応状況点検			

「4つの柱と9つの取り組み」を基本的な枠組みとして、中期3カ年の目的、目標が作られています。

最も重要な「地球温暖化対策」について、「お客さまや地域・社会とともに」取り組んでいく施策を強化します。

一般消費者の方々と接点を多く持つ小売業として、また地域に根ざす地元密着型企業として「お客さまとのコミュニケーション」、「社会・地域とのコミュニケーション」を強化します。具体的には環境に配慮したライフスタイルの提案や社会貢献活動の深耕に取り組んでいます。



環境負荷の低減と環境保全に向けた従業員一人ひとりの地道な取り組みを継続します。

政府の国民運動「チームマイナス6%」の一員として省エネ・省資源活動に積極的に取り組み、また日本百貨店協会のメンバーとして自主行動計画の実現に真摯に取り組めます。スマートラッピングやマイバッグ運動などのPRも、ホームページなどを活用しながら積極的に実施しています。



います。



お買物クマさんが池袋本店で定期的にどんぐりを配布。お客さまが育てた苗木を送っていたり、社内ボランティアが毎年植樹しています

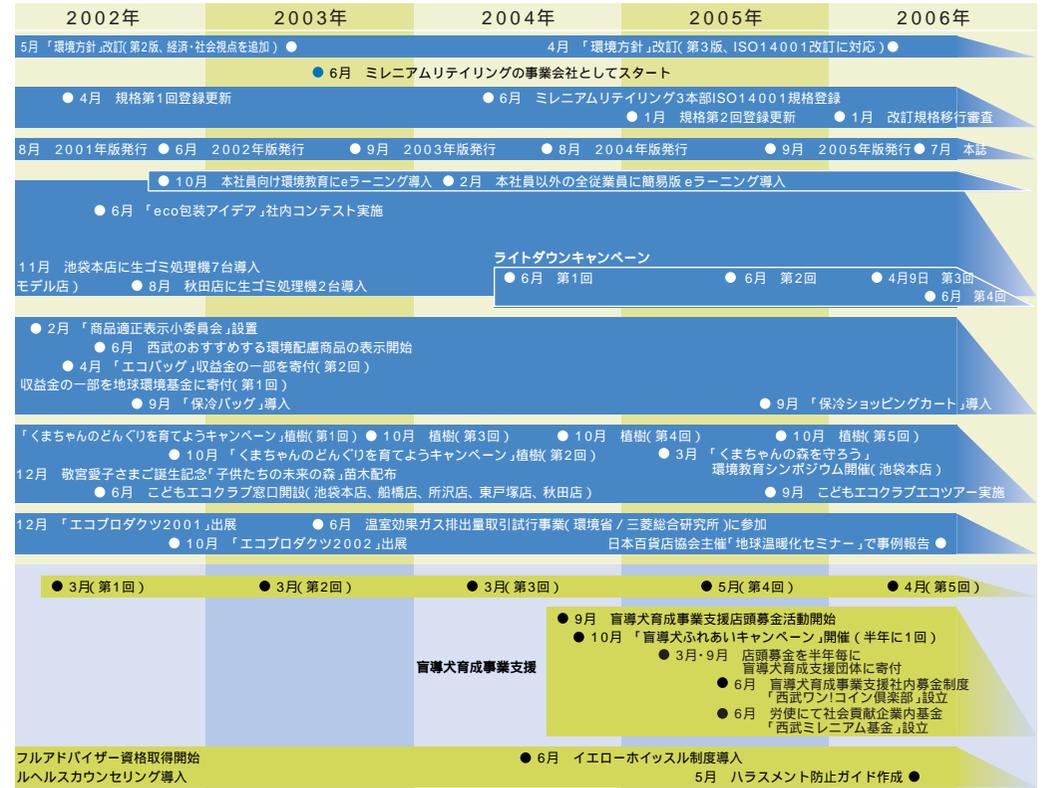
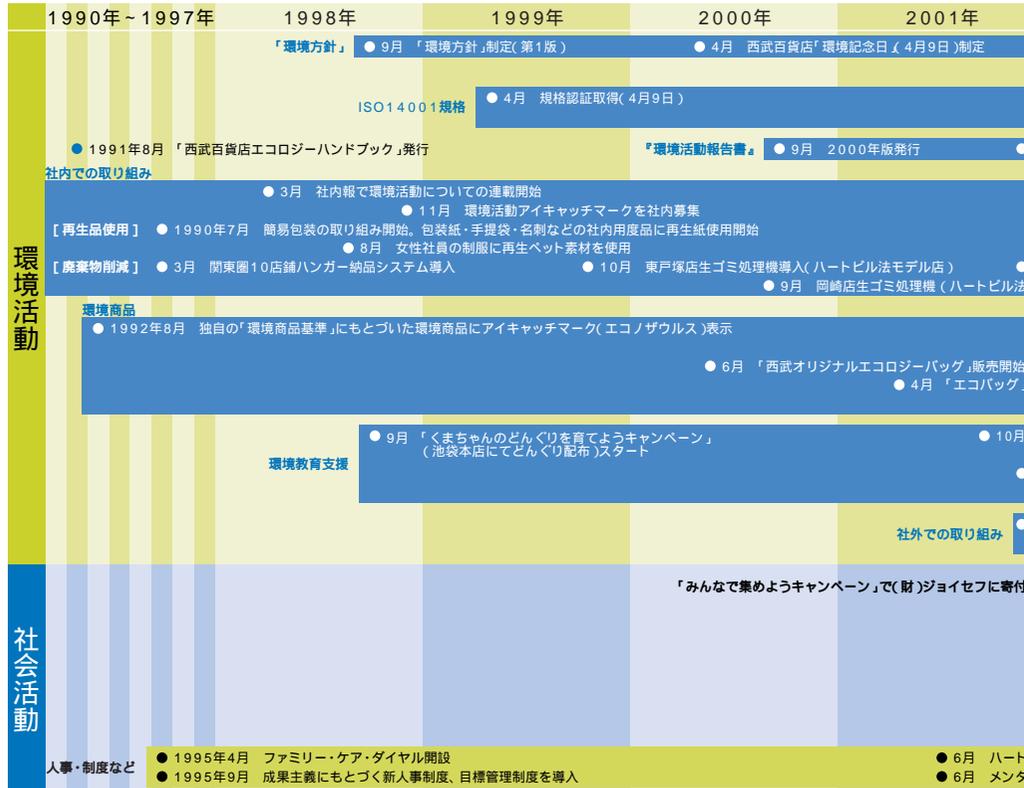
順法とリスクマネジメントの仕組みについて、一層の徹底を図っていきます。

従業員一人ひとりの業務がどのように環境保全に関わるのか、環境教育を通じて自覚を促し、危機管理についての実践力を高めていきます。例えば、緊急事態を想定して対応手順書を作成し、備品や警報装置などの日常点検に加え、半年ごとに実地訓練を実施して、有効性を確認しています。



「地産地消」もCO2削減の重要なキーワードです。福井店や秋田店の大型改装では、今まで以上に地域に密着し、地元産品を重視した品揃えを強化しています(写真は、地酒が豊富な福井店酒売場)

環境・社会活動の歩み 2006年6月までの活動を含む



西武百貨店の環境・社会活動の情報提供

	社外への情報提供	社内への情報提供
Web	環境ホームページ (毎月更新)	社内環境ポータルサイト (毎月更新)
印刷物	環境・社会活動報告書 (年1回発行)	社内報/環境ニュース (月1回)
店頭活動	商品、広告・表示、 イベント(随時)	社内環境活動 (随時)

より多くの方々に、よりタイムリーな環境情報が提供できるように、2006年1月に西武百貨店HPの環境サイトをリニューアルしました。(http://www.seibu.co.jp/usinfo/ecology/index.html) 情報が更新されたときは、トップページでお知らせします。また、ご協力団体のHPとも連動し、より広範な情報提供を心掛けていま

す。また、小学校高学年のお子さま向けに「エコキッズルーム」(http://www.seibu.co.jp/corporate/ecology/ecokids/index.html)も開設。お買物クマやカンガルー君も登場し、楽しみながら当社の環境への取り組みをご理解いただけるように工夫しています。

環境ホームページ



環境・社会活動報告書の発行

2000年版(2000年9月発行・初版)
環境マネジメントシステムの導入からISO14001規格の認証取得、第1回の定期審査までの活動報告。
2001年版(2001年8月発行)
環境負荷の少ない商品開発と店舗運営の仕組みなどを紹介した前編と、環境マネジメントに関する情報を掲載した後編の2部構成。
2002年版(2002年6月発行)
2001年版をさらに進化させ、環境保全活動・社会貢献活動を報告した本編と環境マネジメントシステム編を分冊化。
2003年版(2003年9月発行)
「環境・社会活動報告書」と名称を改め、環境的な側面に加え、経済的、社会的な側面を含めて報告。サイトレポートとして地域や店舗の特性に即した個々の取り組みについても紹介。

2004年版(2004年8月発行)
環境的な側面を中心としながら、企業の社会的な責任にもとづく取り組みとして社会的・経済的な側面も報告。各店活動状況を地域社会に貢献する情報に絞って紹介。
2005年版(2005年9月発行)
環境側面を中心としながら、企業の社会的な責任にもとづく取り組みとして社会的・経済的な側面を含めて報告。西武百貨店のめざす「人によさしい百貨店」の取り組みとして、盲導犬育成事業支援をはじめとした社会貢献活動を紹介します。
2006年版(2006年7月発行・本誌)
ISO14001の2006年規格改訂を受けながら、環境側面を中心に、社会的側面、経済的側面を報告するとともに、99年からの活動を総括。

西武百貨店の事業活動と環境保全活動

百貨店の営業活動では、資源やエネルギーの消費とともに、ゴミや温室効果ガスなどの排出が伴います。私たちは、こうした環境への負担を減らすために、さまざまな場面で環境保全活動に取り組んでいます。

- 商品
- コピー用紙
- 包材
- 用品
- 梱包材
- 水

INPUT 投入

電気	ガス	重油
274,751[MWh] 2,700,806,016[MJ]*1	5,750,217[m] 239,759,656[MJ]*1	944[kg] 36,926,509[MJ]*1
熱供給	ガソリン	
45,698,909 [MJ]	374[kg]*2 12,940,400[MJ]*1	



環境に配慮した商品提案の推進

- 25~26ページ参照
- 資源循環野菜の販売
- 環境に配慮した商品の開発・販売
- 法人外商部の環境ビジネス

順法とリスクマネジメントの強化

- フロン使用機器のチェック...冷凍冷蔵ショーケースの温度管理を徹底、フロン漏洩防止と安全稼働に努める。

地域社会との共生

- 外周清掃...社員たちの手で定期的な周辺地域の清掃実施。
- 店内エコ見学会...地域の方々が生徒に学べる環境教育の場として、店内の環境商品や施設をご案内。

廃棄物の削減とリサイクルの向上

- 再生資源を使用した売場ツール...プラスチックカード入れやポスターなど。
- お客さま用分別ごみ箱
- 百貨店統一ハンガー
- エコ素材の制服...社員バッジ、社員証、女性社員の制服の素材に再生PETを使用。
- 社員用分別ごみ箱
- リターナブルコンテナ納品...納品後には折りたたんでメーカーへ。繰り返し使用してダンボールを減らす。

- ハンガー納品...メーカーから売場までハンガーに吊るして輸送。ダンボールやテープを使いません。
- 化粧びんのリサイクル...資生堂と協力。店頭にお持ちいただいた化粧びんは、ガラスびんの原料に再利用。
- 容器回収...食品トレー、ペットボトル、牛乳パックなどの回収ボックス設置(一部店舗)
- エコステーション...店舗で発生したごみを分別・保管し、各種リサイクル機器で中間処理も行う(写真は池袋本店生ゴミ処理機)

*1 発熱量換算係数
電力: 9.830 [MJ/kWh]
環境報告ガイドライン(2003年度版)(2004年3月 環境省)
ガス: 各ガス供給業者が定める発熱量
13A: 46.04655 [MJ/Nm³] 6C: 20.93025 [MJ/Nm³]
重油: 39.1 [MJ/l] (A重油)
エネルギー源別標準発熱量表の改訂について
(2002年2月 資源エネルギー庁総合政策課)
ガソリン: 34.6 [MJ/l]
エネルギー源別標準発熱量表の改訂について
(2002年2月 資源エネルギー庁総合政策課)
*2 社用車のガソリン使用量
*3 (財)日本容器包装リサイクル協会
2006年度再商品化委託契約に係る容器包装使用量
*4 CO₂排出量
事業者からの温室効果ガス排出量算定方法ガイドライン
(2003年7月 環境省地球環境局)
*5 資源リサイクル分を除く実廃棄物数量
数値はすべて2005年度の年間合計値です。

OUTPUT 排出

容器包装	CO ₂	排水	廃棄物
759[t]*3	122,650[t]*4	2,084[km]	8,928[t]*5

資源リサイクル

9,522[t]
ダンボール・発泡スチロールなど再資源化... 9,059[t]
生ゴミのコンポスト化... 463[t]

紙類使用量の削減

- リサイクルボックス...片面使用済みのコピー用紙や新聞・雑誌などを分別してリサイクル。
- コピー使用量の管理...両面コピーを原則とし、部署ごとに枚数も制限。用紙は古紙混入率70%。
- エコ包装...お客さまのご希望をうかがいながらエコ包装をすすめ、不用品包装紙や紙製手提袋の使用を控える。

水資源使用量の削減

- 消音装置設置と洗面所の節水

電力使用量の削減

- 2up3down運動...従業員は上りは2階分、下りは3階分まで階段を利用。
- こまめな消灯
- 外気冷房システム

車両による環境負荷低減

- 納品代行システム...納品商品を納品代行会社の倉庫に一括集荷し、納品便を効率化して店舗への出入り車両を抑制。
- 営業時間外納品...夜間や早朝の納品で、交通渋滞による大気汚染・騒音発生を抑制。

重油ボイラーの適正管理

- ボイラーのチェック...使用基準を明確化し操作者の定期訓練を実施。

2005年度の活動結果

環境中期目標「4つの柱と9つの取り組み」について、2005年度の実績と達成度をまとめました。

2005年度の環境目的・目標は、12項目中10項目で達成しましたが、「エコ包装の推進 = 手提袋・包装紙の削減」と、地球温暖化対策のうち「低公害車の導入率」の2項目が未達成でした。

「手提袋、包装紙の削減」では、八尾店、筑波店のリニューアルオープンに伴うお客さま数の増加と、業界全体の堅調な営業動向が主な原因です。今後さらにお客さまへの簡易包装の呼びかけを継続・徹底し、業界全体で取り組んでいる「スマートラッピング」やマイバッグ持参なども強化していきます。

「低公害車の導入」については、リース切替台数が当初予定台数を下回ったことが原因で、今後、順次低公害車への切替を進め、2007年度には100%達成見込みです。

一方、「実廃棄量」は廃棄物総量の抑制(目標比95.4%、前年比97.7%)とリサイクル量の増加(目標比102.0%、前年比103.1%)により削減目標を大幅に達成しました。

「エコバッグの売上高」は、お客さまの声を活かして新たに導入した保冷タイプのショッピングカートが好評だったことと、各店舗による品揃えの点検・見直しにより、前年比117%と大きく伸長しました。

店舗外周清掃をはじめとした地域とのコミュニケーションも前年比2桁増と、年々定着をみせており、活動内容も各店で様々な工夫が見られるようになっていきます。

4つの柱	9つの取り組み	実績(目標比、前年比)	達成度	具体的な取り組みと環境保全効果	
1 お客さまとのコミュニケーションの強化	環境商品の選定と提案	環境選定商品(新規選定品目) 13品目 (目標比130%、前年比118.2%)	◎	・本年度新たに13品目の環境商品を選定し、合計137品目となりました。また、店頭での表示を徹底しました。	
		環境商材売上 53.6億円 (目標比134%、前年比101.3%)	◎	・組織変更で目標の見直しをしましたが、包材・資材・環境機器の拡販で売上高は前年差+0.7億円と伸長、当初の目標もクリアしました。	
	エコ包装の推進	エコバッグ売上 9,409千円 (目標比133.2%、前年比117.1%)	◎	・新型保冷ショッピングカートを開発、また、既存エコバッグ2型に新色クロを追加し、欠品防止にも努めました。	
		手提袋・包装紙納品量 269,659kg (目標比101.3%、前年比101.9%)		・簡易包装お勤めトークシートを各レジカウンターに再整備。また、簡易包装メッセージシール(9万枚)を使用し、お客さまの協力をいただきました。但、包装紙は減少も客数増に伴い手提袋は増加。	
2 社会・地域とのコミュニケーションの強化	環境イベント・セミナーの開催	2006年度より実施		(2005年度実施分は地域コミュニケーションを含む)	
	地域との共生	店舗外周清掃の実施 706回 (目標比104.9%、前年比110.3%)		・全店で月1回以上、延べ706回(前年+66回)の店舗外周清掃を実施。 ・地域行政や商店会との合同清掃などにも積極的に参加しました。	
		地域コミュニケーションの実施 234回 (目標比139.3%、前年比127.9%)	◎	・行政や地域団体等からのアンケート33件、環境キャンペーンやフェア等への協力24件、子どもエコクラブ、セミナー講師等、前年+51回の地域コミュニケーションを実施しました。	
盲導犬育成支援活動	盲導犬育成支援募金の実施とふれあいキャンペーン 半年に1回盲導犬ふれあいキャンペーンを全店で開催。また、池袋本店「ワン!たフルライフ」岡崎店「ワン!コイン福祉選会」など店舗独自の盲導犬育成支援イベントも開催しました。		・05年度店頭募金額は8,046千円で、盲導犬育成7団体へ寄付しました。05年6月に新たに設立した社員募金「西武ワン!コイン倶楽部」は2月末で6,434千円に達しました。		
3 環境負荷の低減と環境保全活動の推進	電力使用量原単位	138.58Wh/(㎡・h) (目標比98.9%、前年比100.1%)		・社員食堂などに電力メーターを増設し、キメ細やかな使用量目標に基づいた管理を推進。また店内照明に省エネランプを使用し、店内改装時には消費電力の少ない蛍光灯タイプの照明器具へ交換しました。 ・全店で環境省提唱ライトダウンキャンペーンに参加、ネオン照明等の消灯により約100kWhの電力を削減しました。	
		使用量 274,751,375kwh (目標比98.8%、前年比102.5%)			
	「地球温暖化」対策	温室効果ガス排出量の把握と排出抑制に向けたプログラムの策定	・施設管理担当者会議(2回)において、温室効果ガス排出量算定ルールの説明を実施。 ・温室効果ガス排出量算定ルールに基づき、2005年度温室効果ガス排出量を算定。		
		社用車の低公害車導入率 91.7% (目標比98.6%、前年比146.5%)		・自動車使用管理計画書(自動車NOx/PM法)に基づいて「低公害車導入」し、車両走行量削減「適正運転」の取り組みを行い、その結果を東京都・大阪府へ提出しました。 ・リース期間満了時の車種変更により、低公害車244台を導入(前年比+73台)、導入率も前年差+29.1%と大幅増。また社用車ユーザーへのアイドリングストップ啓発も継続実施。	
		低公害車数 244台 (目標比96.4%、前年比142.7%)			
	重油ボイラーの適正管理	・省工本法経済産業局現地調査事前調査表に基づき管理標準書を見直し改訂完了。(船橋店・静岡店・大津店・福井店・旭川店) ・第1種指定店舗に対する経済産業局現地調査で合格判定(船橋店・大津店)。			
	納品代行システムの利用拡大	・テナント取引先説明会において、納品代行システムの説明と利用依頼を実施。			
「循環型社会」の推進	実廃棄量 8,928,274kg (目標比89.2%、前年比92.6%)		・生ゴミ処理機からできたコンポスト(堆肥)を使用し、生産された農産物を店頭で販売するという資源循環システムが池袋本店と秋田店で継続的に稼働。 ・再商品化委託量は、プラスチック製容器包装20.4t(前年比+1.4t)、紙製容器包装3.7t(前年比-1.7t)。店舗閉鎖と件と簡易包装の取り組み推進強化により大幅な削減達成。 ・回収処理済み商品券24.5tをトイレトーパーバーにリサイクル。		
	廃棄物総量 18,450,544kg (目標比95.4%、前年比97.7%)				
	リサイクル率 51.6% (目標比107.0%、前年比105.5%)				
「省資源」の推進	リサイクル量 9,522,270kg (目標比102.0%、前年比103.1%)				
	コピー用紙納品量 109,242kg (目標比97.3%、前年比100.8%)		・店舗大型改装に伴う販売促進用チラシ作成などで、目標は達成も前年比100.8%(+820kg)とわずかに前年をオーバーしました。		
	下水道使用量原単位 1,042ℓ/(㎡・h) (目標比96.4%、前年比96.0%)		・社員食堂残飯流し場の流水量適正化に向けて使用量目標を設定し、毎日使用量を点検確認しました。 ・トイレの脱音装置の電池切れをこまめに点検し、活用を促進しました。		
使用量 2,083,551m ³ (目標比97.1%、前年比99.45%)					
4 コンプライアンスとリスクマネジメント	順法とリスクマネジメントの強化	フロン管理の徹底	・環境法規制順守状況チェックシートによりフロン類の適正引渡し状況を確認し(4月、10月)フロン類使用機器の廃棄時に第1種フロン類回収業者へ適正なフロン類引渡しを実施。 ・冷凍ケースは1日2回(10時、15時)の庫内温度点検を継続実施。		
		PCB管理の徹底	・「PCB廃棄物保管及び処分状況届出書」を行政に提出。(池袋本店、渋谷店、静岡店、沼津店、札幌店)・渋谷店保管のPCB廃棄物について、所有者(家主)管理者(西武百貨店)の相互確認と東京都への説明を実施。(東京都了解済み)・保管するPCB廃棄物の詳細調査を実施し、日本環境安全事業(株)への処理委託早期申込みを完了。		
		薬品管理の徹底	・運用管理等について規程を見直し、特定教育及び緊急事態対応手順テストを業務委託先従業員含めて実施。また、化学薬品の保管場所や使用場所においても生じないよう色分け・表示を徹底しました。		
		テナント管理(環境教育)	・本部では毎月のテナント部・課長会で、マネジメント対象の教育を実施し、審査による理解度も確認。店舗ではその部課長が各テナント責任者の指導にあたっています。・新店や改装時のテナント説明会では、環境対応チェックシートを活用して取組み喚起に努めました。・テナントオペレーションシステムの機能周知を図り、システム導入後の活用状況についてアンケートも実施。結果分析を更なる利用推進に活用。		

達成度 ◎.....大幅達成(目標に対して20%以上の超過達成)達成やや未達成(目標に対して20%以下の未達成) ×.....未達成(目標に対して20%を超える未達成)

2005年度 店舗の環境目標達成状況

主要な取り組み項目の環境目標達成状況と特に重点的に取り組んだ施策を、店舗ごとにまとめました。

表の見方

目標達成度
各サイトの2005年度目標に対する実績を表します。
目標を達成した(目標比100%以上)
目標を若干下回った(80%以上100%未満)
× 目標を達成できなかった(50%以上80%未満)

池袋本店

売場面積 m² 38,163

	実廃棄量	リサイクル量	包装紙・手提袋納品量	下水道使用量	電力使用量
目標達成度					
年間総量	2,268t	2,387t	96.20t	540km ³	62,375MWh
参考指標	売上100万円当り 15.7kg	リサイクル率 51.3%	100客当り 408.7g	原単位 1.6784(k/mh)	原単位 193.72Wh/(mh)

食品やレストランでの生ゴミの水切り徹底とゴミ分別の徹底により、リサイクル率向上と実廃棄量の削減を実現。

有楽町店

売場面積 m² 14,931

	実廃棄量	リサイクル量	包装紙・手提袋納品量	下水道使用量	電力使用量
目標達成度					
年間総量	80t	152t	3.95t	28km ³	6,226MWh
参考指標	売上100万円当り 4.4kg	リサイクル率 65.5%	100客当り 313.8g	原単位 0.4814(k/mh)	原単位 106.04Wh/(mh)

電子機器の活用によるペーパーレス会議の促進や両面コピー推進により、コピー用紙使用量を削減。

船橋店

売場面積 m² 34,649

	実廃棄量	リサイクル量	包装紙・手提袋納品量	下水道使用量	電力使用量
目標達成度					
年間総量	410t	370t	17.46t	175km ³	21,796MWh
参考指標	売上100万円当り 15.4kg	リサイクル率 47.4%	100客当り 305.5g	原単位 1.1384(k/mh)	原単位 141.95Wh/(mh)

近隣百貨店とともに行政と協力して市の駐車場情報システムに参加。駅周辺の渋滞緩和に貢献。

東戸塚店

売場面積 m² 35,367

	実廃棄量	リサイクル量	包装紙・手提袋納品量	下水道使用量	電力使用量
目標達成度					
年間総量	186t	1,062t	8.57t	128km ³	18,514MWh
参考指標	売上100万円当り 9.0kg	リサイクル率 85.1%	100客当り 89.8g	原単位 0.9234(k/mh)	原単位 133.9Wh/(mh)

エコバッグの販売を強化。前年伸長率および「保冷ショッピングカート」売上は全店1位。

渋谷店

売場面積 m² 40,033

	実廃棄量	リサイクル量	包装紙・手提袋納品量	下水道使用量	電力使用量
目標達成度			×		
年間総量	400t	702t	15.26t	141km ³	25,183MWh
参考指標	売上100万円当り 7.9kg	リサイクル率 63.7%	100客当り 277.3g	原単位 0.8974(k/mh)	原単位 160.42Wh/(mh)

社員へのゴミ分別の徹底により、とくに紙ゴミのリサイクル率が向上。全体の廃棄物も大幅に削減。

所沢店

売場面積 m² 23,671

	実廃棄量	リサイクル量	包装紙・手提袋納品量	下水道使用量	電力使用量
目標達成度					
年間総量	445t	576t	16.47t	92.5km ³	12,481MWh
参考指標	売上100万円当り 21.2kg	リサイクル率 56.4%	100客当り 323.5g	原単位 1.0284(k/mh)	原単位 138.57Wh/(mh)

店頭でのPOP掲出や販売員の積極的なおすすめによるエコバッグ販売強化。

筑波店

売場面積 m² 25,258

	実廃棄量	リサイクル量	包装紙・手提袋納品量	下水道使用量	電力使用量
目標達成度					
年間総量	187t	288t	14.40t	64km ³	10,506MWh
参考指標	売上100万円当り 9.4kg	リサイクル率 60.6%	100客当り 349.4g	原単位 0.6711(k/mh)	原単位 114.66Wh/(mh)

全店に先駆けてアルミ缶回収活動を実施。9月には社会福祉協議会へ車椅子を3台寄贈。地域のお客さまにもご協力いただき活動を推進。

高槻店

売場面積 m² 38,964

	実廃棄量	リサイクル量	包装紙・手提袋納品量	下水道使用量	電力使用量
目標達成度					
年間総量	716t	778t	9.54t	166km ³	22,442MWh
参考指標	売上100万円当り 32.0kg	リサイクル率 52.1%	100客当り 122.6g	原単位 1.1094(k/mh)	原単位 149.99Wh/(mh)

外気活用による基本空調機運転の効率化および食品・テナントなど、節水・節電啓発によるエネルギーの削減に成果。

八尾店

売場面積 m² 38,169

	実廃棄量	リサイクル量	包装紙・手提袋納品量	下水道使用量	電力使用量
目標達成度					
年間総量	1,665t	699t	11.31t	154km ³	18,924MWh
参考指標	売上100万円当り 77.2kg	リサイクル率 29.6%	100客当り 177.2g	原単位 1.0514(k/mh)	原単位 129.18Wh/(mh)

「八尾をきれいにする運動推進本部」へ加入。店舗外周清掃のみならず地域美化活動を拡大。同時に社内クリニックも強化。

福井店 (旧だるまや西武)

売場面積 m² 25,691

	実廃棄量	リサイクル量	包装紙・手提袋納品量	下水道使用量	電力使用量
目標達成度					
年間総量	308t	205t	11.02t	70km ³	9,297MWh
参考指標	売上100万円当り 20.2kg	リサイクル率 39.9%	100客当り 382.5g	原単位 0.6804(k/mh)	原単位 102.94Wh/(mh)

毎月2回の「店内エコバトル」で課長クラスメンバー自らが従業員施設や倉庫の消灯点検、ゴミの分別点検を実施。

旭川店

売場面積 m² 30,043

	実廃棄量	リサイクル量	包装紙・手提袋納品量	下水道使用量	電力使用量
目標達成度					
年間総量	309t	251t	8.90t	57km ³	9,767MWh
参考指標	売上100万円当り 28.0kg	リサイクル率 44.8%	100客当り 310.7g	原単位 0.5444(k/mh)	原単位 93.17Wh/(mh)

店舗施設をコミュニティセンターの場として積極的に提供。地域の活性化に貢献。

大津店

売場面積 m² 28,364

	実廃棄量	リサイクル量	包装紙・手提袋納品量	下水道使用量	電力使用量
目標達成度					
年間総量	711t	586t	9.95t	114km ³	15,059MWh
参考指標	売上100万円当り 49.2kg	リサイクル率 45.2%	100客当り 233.7g	原単位 1.0554(k/mh)	原単位 139.36Wh/(mh)

マイバッグ持参運動により包装紙・手提袋の使用量を削減。お客さまへのおすすめのみならず社員へも積極的に啓発推進。

静岡店 (06年3月末にて閉店)

売場面積 m² 18,885

	実廃棄量	リサイクル量	包装紙・手提袋納品量	下水道使用量	電力使用量
目標達成度					
年間総量	142t	116t	7.43t	113km ³	8,207MWh
参考指標	売上100万円当り 12.4kg	リサイクル率 44.8%	100客当り 421.9g	原単位 1.5994(k/mh)	原単位 117.63Wh/(mh)

ペーパーレス会議の推進や不要な印刷の排除により、コピー用紙の使用を削減。

札幌店

売場面積 m² 28,924

	実廃棄量	リサイクル量	包装紙・手提袋納品量	下水道使用量	電力使用量
目標達成度					
年間総量	370t	322t	8.72t	72km ³	12,727MWh
参考指標	売上100万円当り 23.6kg	リサイクル率 46.5%	100客当り 241.1g	原単位 0.6464(k/mh)	原単位 114.47Wh/(mh)

札幌市内の環境ネットワークに参加。市の環境報告書展に出展するなど地域の環境活動の活性化に向けて積極的に協力。

秋田店 (旧金西武)

売場面積 m² 10,799

	実廃棄量	リサイクル量	包装紙・手提袋納品量	下水道使用量	電力使用量
目標達成度					
年間総量	279t	417t	7.94t	42km ³	6,248MWh
参考指標	売上100万円当り 34.8kg	リサイクル率 59.9%	100客当り 297.2g	原単位 0.8744(k/mh)	原単位 129.95Wh/(mh)

生ゴミリサイクルを積極的に推進。店内の生ゴミからできたコンポストを使用し、地元農家で生産された農産物を環境フェアで紹介。

沼津店

売場面積 m² 30,340

	実廃棄量	リサイクル量	包装紙・手提袋納品量	下水道使用量	電力使用量
目標達成度			×		
年間総量	115t	200t	11.64t	35km ³	3,935MWh
参考指標	売上100万円当り 12.6kg	リサイクル率 63.4%	100客当り 724.7g	原単位 1.0034(k/mh)	原単位 122.66Wh/(mh)

毎日実施している外周清掃に加え、沼津まつり翌日の市内拡大清掃など地域貢献活動を強化。駅前花壇も社内募金と社員の手で育成。

岡崎店

売場面積 m² 15,387

	実廃棄量	リサイクル量	包装紙・手提袋納品量	下水道使用量	電力使用量
目標達成度					
年間総量	140t	270t	6.51t	42km ³	5,628MWh
参考指標	売上100万円当り 14.3kg	リサイクル率 65.9%	100客当り 246.7g	原単位 0.6584(k/mh)	原単位 87.53Wh/(mh)

イオンSC育樹祭への盲導犬パルシ展示や、元旦のチャリティ福引抽選会の実施など店舗独自で盲導犬育成支援活動を推進。

富山店 (06年3月末にて閉店)

売場面積 m² 12,470

	実廃棄量	リサイクル量	包装紙・手提袋納品量	下水道使用量	電力使用量
目標達成度					
年間総量	195t	143t	4.40t	51km ³	5,399MWh
参考指標	売上100万円当り 29.3kg	リサイクル率 42.2%	100客当り 447.6g	原単位 1.1604(k/mh)	原単位 122.94Wh/(mh)

食品厨房の節水徹底および補給水バルブの適切な調節により、効率的な水資源使用に効果。

2005年度環境会計

環境保全への取り組みを、環境保全活動のコストと効果で定量的に評価しました。

環境会計の目的と考え方

環境会計とは、企業の環境保全への取り組みを定量的(貨幣単位および物量単位)に計算して評価する仕組みです。西武百貨店の環境目的・目標である「4つの柱と9つの取り組み」にもとづく環境保全活動を、コストと効果から評価し、今後の活動に反映するための経営指標の一つとします。また、西武百貨店の環境

保全活動に対する理解を深めていただくためのツールでもあります。

省エネ法・地球温暖化対策推進法の改正により、今後更なる省エネへの取り組みが重要となるため、集計結果についての検証・分析を行い、環境会計を全体として有効な省エネ投資を計画・実行していくための指針としていきます。

環境保全コスト 投資+経費=736.9百万円			
環境目的・目標	投資額(百万円)	経費額(百万円)	具体的な内容
電力使用量の削減	5.2	0	大津店 中央監視装置改修他
フロンの管理強化	6.3	0.9	池袋本店 社員食堂用エアコン更新他
重油ボイラーの適正管理	3.9	0.3	池袋本店 ボイラー改修他
薬品管理	6.3	0	大津店 薬剤管理設備改良他
廃棄物の削減		689.0	廃棄物処理料(前年差 17)
容器包装リサイクル		14.5	容器包装リサイクル協会への委託料、商品券リサイクル費用(前年差+1.5)
顧客向けキャンペーン費用		2.0	クマちゃんどんぐりキャンペーン他
環境マネジメントシステム運用		8.5	ISO定期審査、環境教育ツール作成、環境報告書作成他
計	21.7	715.2	2005年度投資案件は既存設備の老朽化更新が主な項目のため、更新に伴う効率改善や前年の波及効果は計上しませんでした。大津店井水プラントにおいては、薬品を自動注入できるよう設備改修を行い、漏洩・混触のリスクを低減しました。廃棄物総量の削減(前年比97.7%)およびリサイクル率の向上(前年比+2.7%)により実廃棄物量が削減し(前年比92.6%)、廃棄物処理料も前年に対し17百万円減少しました。

環境保全対策に伴う経済効果=873.1百万円		
環境目的・目標	効果額(百万円)	具体的な内容
環境商品の売上拡大	839.8	法人外環境商材売上収入
	2.3	エコバッグ売上収入
下水道使用量の削減	20.0	実績2,084km ³ 、水道使用量の削減費用
リサイクルアイテム売却収入	11.0	ダンボール等の売却代金
計	873.1	収益では、法人外商部の「環境商材売上拡大(前年比101.3%、組織変更に伴う目標比134.0%)」が高い効果を上げました。

環境保全効果 = 物量単位の効果および取り組みの成果については、11~12ページ「2005年度の活動結果」に記載のとおり。

算定基準について
 環境保全コストの算定基準
 小売業では、環境保全だけを目的とした設備の導入や研究開発は少なく、むしろ日常業務の見直しや効率化の中で、その目的が環境保全以外に多岐にわたっている複合的な場合が多いため、主たる活動目的が環境保全である場合のみその全額を計上し、差額集計・按分集計は行っていません。また、減価償却費、人件費は計上していません。
 経済効果算定基準
 それぞれの環境保全活動の取り組みによって、利益に貢献した効果を計上しています。
 収益:実施した環境保全活動の結果として、当期において実現した財務会計上の収益
 費用削減:実施した環境保全活動の結果として、前期の費用から削減

された費用
 ・実質的な効果を算定の対象とし、回避されたリスクに関する推定的な効果は算定の対象としていません。
 環境保全効果算定基準
 ・それぞれの環境保全活動の取り組みによって、環境負荷の低減に貢献した効果を記載しています。
対象期間と集計範囲
 2005年3月1日~2006年2月28日(西武百貨店会計年度)
 環境マネジメントシステムの対象となる全事業所の集計
参考としたガイドライン
 2005年2月環境省発行「環境会計ガイドライン2005年版」を参考に環境目的・目標に沿った集計を行いました。

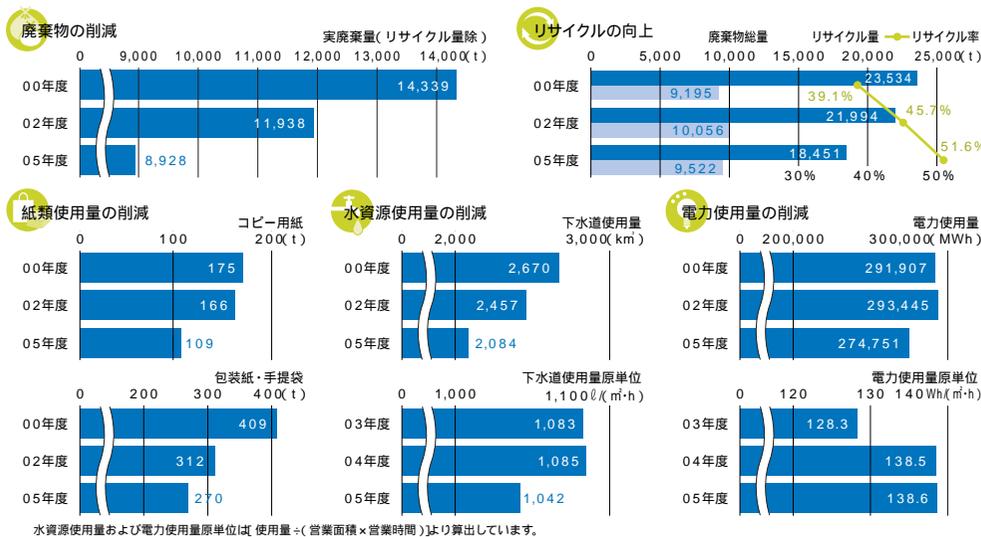
環境目標達成への歩み

(2000年度、2002年度、2005年度の比較)

ISO認証取得以来、店舗別に環境目標を設定し、全社で環境保全活動に取り組んできました。その間、東戸塚店、岡崎店の新規開店、2000年6月大店立地法」施行に伴う営業日数・営業時間の拡大、4店舗の大型リニューアルおよび6店舗閉店といった大きな与件はありながらも、着実に活動の成果をあげてきました。

例えば2005年度実廃棄物量は、2000年度比

62.3%と激減。紙類の使用量も、コピー用紙が同62.3%、包装紙・手提袋同66.0%と大幅に減少。電力使用量、下水道使用量も2000年度比で94%、78%と削減しました。ただし、営業面積と営業時間という与件を取り除いた「原単位」では、比較可能な03年度比で、下水道使用量は96.2%と年間1%削減目標を達成も、電力使用量は2004年度107.9%、2005年度前年比100.1%と2年連続で増加。06年度は細かな現場の努力の積上げで前年比99.5%の目標必達を目指します。



水資源使用量および電力使用量原単位は「使用量÷(営業面積×営業時間)」より算出しています。

利害関係者とのコミュニケーションも積極的に進めています

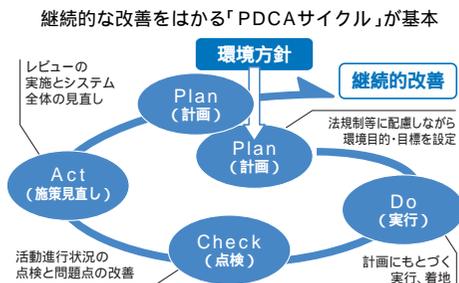
情報の種類	2005年度		前年差
	件数	主な協力内容	
アンケート・調査表への協力	33	環境省/「環境にやさしい企業行動に関するアンケート」調査協力 日本百貨店協会/「百貨店の環境対策に関する定期調査」百貨店におけるエネルギー使用量実態調査」への回答	+2
キャンペーンへの協力・エコフェア出展、各種応募、申請	24	環境省・日本百貨店協会/ライトダウン2005ブラックイリミネーション協力 内閣府/「環境にやさしい買い物キャンペーン」への協力(同東京都/大阪府)	+11
外部団体への参加・講演	10	財団法人日本環境協会/子どもエコクラブパートナーシッププログラムへの登録 日本百貨店協会/「地球温暖化防止対策研究セミナー」での講演	+3
法規制・条例・その他情報	6	関東百貨店協会/東京都環境確保条例改正(省エネラベリング制度の創設)について 関東経済産業局、東京都環境局/PCB廃棄物保管開始関連の行政届出	+4
ご意見・苦情	2	岡崎店/食品ポリ手付き袋を岡崎店指定可燃物ゴミ袋に変更してほしいのご意見	+2
お礼状	1	エコツアー実施に対するお礼状	+1
その他	7	秋田市立旭川小学校/生徒18名によるエコツアー開催協力 大手町商店街振興組合/沼津駅前ロータリー横花壇の花植替え実施	+1
計	83		+24

環境マネジメントの仕組みと運用

西武百貨店は着実に持続的な環境活動を実践するために、国際規格 ISO14001 にもとづいた環境マネジメントシステム(EMS)を導入しています。

西武百貨店の環境マネジメントシステム

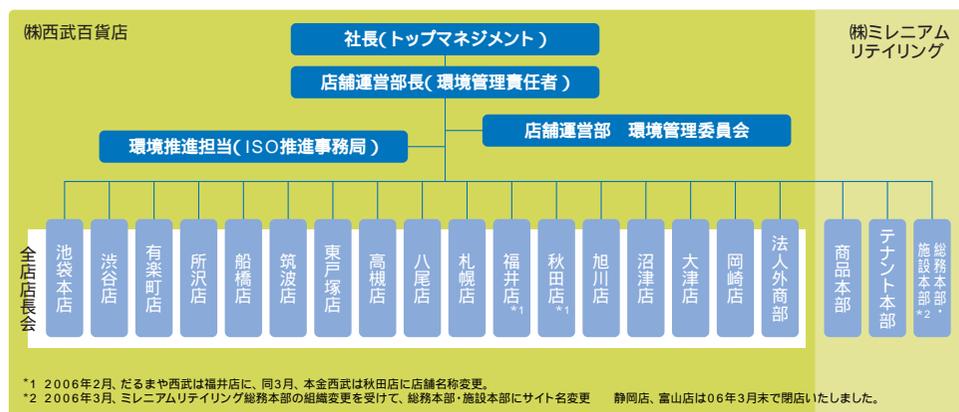
国際規格 ISO14001 にもとづき、PLAN(目標・計画) DO(実施と運用) CHECK(実施結果の監視と測定) ACT(是正処置、経営層による見直し)のサイクル(略称・PDCAサイクル)に沿った、持続的・発展的な環境マネジメントを行っています。



環境マネジメントのための組織体制

環境マネジメントシステムは、トップマネジメントである社長のもと、店舗運営部長を環境管理責任者とし、西武百貨店16店舗、2事業所(店舗運営部、法人外商部)ならびに西武百貨店の事業活動に不可欠な部門として2004年5月に拡大審査を受審し、ISO14001の登録範囲に統合したミレニアムリテイリング4部門(商品本部、テナント本部、総務本部・施設本部)の全21サイトで構成されています。

各サイトがそれぞれ環境管理委員会を組織し、店長や部門長を委員長としてPDCAサイクルにもとづく活動を行い、環境管理責任者が委員長を務める店舗運営部環境管理委員会が各サイトの活動を統括しています。各サイトの活動を統括するためには、幅広い情報と審議が必要となるため、店舗運営部環境管理委員会は代表店舗3店・法人外商部・ミレニアムリテイリング3サイトからも委員が任命されています。また、店舗サイト間の相互コミュニケーションは、全店店長会を通じて行われています。



*1 2006年2月、だるまや西武は福井店に、同3月、本西武は秋田店に店舗名称変更。
*2 2006年3月、ミレニアムリテイリング総務本部の組織変更を受けて、総務本部・施設本部にサイト名変更 静岡店、富山店は06年3月末で閉店いたしました。

ISO14001登録状況

登録番号 JQA-EM0401
 審査機関 財団法人日本品質保証機構
 登録範囲 株式会社西武百貨店 全店・全事業所
 株式会社ミレニアムリテイリング 商品本部、テナント本部、総務本部・施設本部
 登録日 1999年4月9日
 次期更新 2008年4月8日



JQA-EM0401



「環境マネジメントシステム(EMS)」にもとづく1年間のおもな活動

	PLAN (計画)	DO (実施・運用)	CHECK (監視・測定)	ACT (是正・経営層による見直し)
3月	環境目的・目標の設定 推進体制の見直しと環境管理委員会メンバー発令	環境マネジメントシステム文書定期見直し	第4四半期(12-2月)および年間目標達成状況報告	全社マネジメントシステムの見直し(環境方針、環境目的・目標など)
4月	月次で実施 環境管理委員会開催と進捗確認 入店時環境教育、環境デー教育 法、条例等の確認	排水水の状態点検 特定業務従事者訓練 エネルギー管理指定工場中長期計画書・実績報告書提出	法規制等順守状況点検	
5月				
6月	臨時実施 社内外コミュニケーション 不適合予防是正処置	廃棄物処理ルート実査 緊急事態発生時対応手順テスト	第1四半期(3-5月) 目標達成状況報告	サイト別自主点検
7月				
8月		煤煙測定		
9月	環境目的・目標の見直し(修正) 推進体制の見直しと下期メンバー発令		第2四半期(6-8月) 目標達成状況報告	
10月		法定資格保有者の確認 特定業務従事者訓練	法規制等順守状況の点検	
11月	環境側面の定期見直し	環境マネジメントシステム文書の最新版配布・管理状況確認	サイト別自主点検 内部監査員研修	
12月		個別環境教育(オンライン、全社員環境アンケート)	第3四半期(9-11月) 目標達成状況報告	内部監査
1月				ISO14001審査
2月		煤煙測定		環境マネジメントシステムの見直し(各サイト)

環境教育による環境意識の向上

環境マネジメントを支える従業員一人ひとりの環境意識を高めるため定期的な研修や教育・訓練を継続しています。

新規入店者研修と定例教育

西武百貨店では、新たに入店する契約社員(パートナー) お取引先の派遣社員(ダリアスタッフ)、テナントや業務委託先の社員など全従業員を対象に、入店時に「販売基本ルール」にもとづいた環境方針や環境への取り組みについての研修を実施しています。その中で「私の環境宣言」として、各自が日々の業務の中で重点的に取り組む環境活動を設定し、主体的に取り組んでいくよう教育しています。

また、店舗ごとに毎週1回「環境デー」を設け、全社共通の「環境テーマ」にもとづいた教育・徹底を行っています。「環境ニュース」では各店の環境トピックスや社外の環境活動などについて紹介し、情報の共有化も図っています。

環境eラーニング

本社員を対象にインターネットを使った環境教育「環境eラーニング」を導入しています。これには一定のレベルで学習し、学習履歴が残り、何より各自の都合のよい時間に学習できるという利点があります。パートナー社員、ダリアスタッフ、テナント・業務委託先社員にも「簡易版eラーニング」を拡大し、どちらも毎年1回実施しています。

内部監査員養成研修とスキルアップ研修

内部監査員新規認定のため、年に1回養成研修を開催、修了研修に合格すると社内資格を取得することができます。2005年度は新たに7名の内部監査員が認定され、計103名となりました。内部監査員は、6月と11月に自店の活動をチェックする「環境定期点検」および12月に店舗間で相互に監査を行う「内部監査」の計3回の点検を行います。

また、内部監査員の資格取得者を対象に、年1回スキルアップ研修を開催し、正しい内部監査を行うため



の監査技術の維持・向上に努めています。一度資格を取得しても、この研修を受講しなければ、その年度の内部監査を行うことはできません。2005年度は新任7名を含む43名が内部監査員に任命されました。

専門教育・訓練

「著しい環境影響の原因となる可能性をもつ業務を担当する」全従業員に、専門教育を実施しています。対象者は、PCB・フロンなど環境有害物質を扱う従業員、廃棄物の処理を行う従業員、自家発電設備およびボイラーの運転を行う従業員、化学薬品を扱う従業員、テナント部課長会で教育・指導にあたる者で、年に2回教育・訓練の受講を義務付けています。

従業員に対する環境教育の考え方

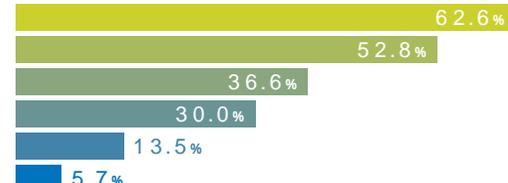


社員の環境意識 全社員アンケートから

(2005年12月～2006年1月)

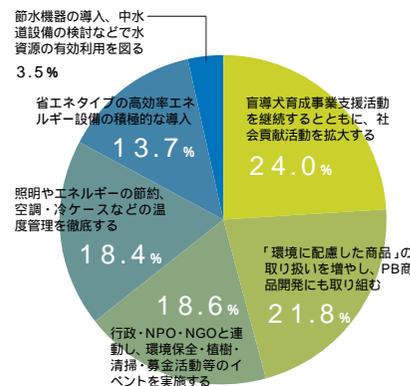
西武百貨店の環境・社会貢献活動についてどう思いますか？(複数選択)

ごみの分別が徹底されており、家庭でも気をつけるようになった
外周清掃など地道な活動を継続しており、地域にも貢献している
「西武百貨店のおすすめする環境配慮商品」の展開規模が少ない
節電プレートや2up3downが徹底され、省エネが身についた
業界初でISO14001を取得も、同業他社の動きのほうが目立つ
事務局は一生懸命取り組んでいるが、売場にはあまり浸透していない



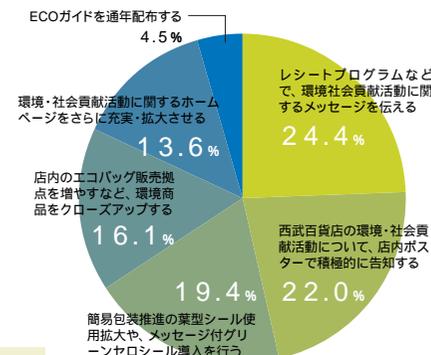
会社・家庭で行っているのでゴミの分別が自然に身につく、公共の場でも気をつけるようになった。小さなことだが、一つひとつ着実に実行することが大切だと思う。(法人外商部)

西武百貨店として「重点的に取り組むべき」と思う環境・社会貢献活動は何ですか？(1つ選択)



盲導犬育成事業支援活動だけでなく、その他の社会貢献活動への協力や、ユニバーサルデザインの商品の取り扱いを広げるなど、もっと取り組みを拡大すべきだ。(池袋本店・コミカレ)

西武百貨店の環境・社会貢献活動をさらにお客さまにご理解いただくために、どんな告知方法が必要でしょうか？(1つ選択)



店内ポスターなどは掲示されているが、お客さまの目に入る機会が少ないと思います。やはり簡易包装推進の葉型シールやレシートプログラムなど、お客さまの目に入る機会が多いツールの利用を増やすべきだ。(所沢店)

会社としての対応

- ・6月の環境月間をはじめ、定期的にレシートにメッセージを入れています。
- ・簡易包装推進の葉型シールも、より使いやすいように形状を改善しました。
- ・エコロジーバッグの機能やカラーを継続的に見直し、環境商品の表示やメッセージカードも見直しました。
- ・環境ホームページを刷新し、情報提供を強化しています。

環境マネジメントシステムの点検と改善

EMSの運用状況をセルフチェックする内部環境監査や外部機関による定期審査により継続的な仕組みの改善に努めています。

内部監査の実施

ISO14001登録全サイトを対象に、年1回内部監査を実施しています。

2005年度は12月12日から12月30日にかけて、社内資格を取得した主任監査員12名、監査員31名で実施しました。

設問に対し、全サイトで良好率平均96.7%、前年2.2%アップと好成績でしたが、環境管理委員会の運営や環境活動の理解浸透など店舗間格差はむしろ拡大しているという課題も残っています。また、PDCAサイクルの中では、CとA=「検証とその結果の反映」に改善の余地がありました。

今後は各店舗の好事例を共有しながら、環境管理委員会による進捗管理と課題解決に向けた審議の徹底、啓発活動の推進などの改善を図っていきます。



内部監査(高槻店)



内部監査(渋谷店)

項目別指摘件数

	単位:件			
	合計	重大な不適合	軽微な不適合	観察事項
環境側面	2			2
法的要求事項	1			1
実施計画	7		1	6
体制および責任	2			2
訓練、自覚および能力	6		1	5
コミュニケーション	2		1	1
文書管理	3			3
運用管理	6			6
監視および測定	1		1	
順守評価	1		1	
不適合ならびに是正および予防処置記録	4		2	2
内部環境監査	1			1
マネジメントレビュー	4	1	1	2
合計	42	1	8	33
推奨事項	22			

環境法規制などに対する順守状況

西武百貨店の事業活動に関連する公害防止、廃棄物など15分野37の法律について、年2回、全店舗で160項目以上にわたってチェックシートを作って順守状況をチェックしています。特に2005年度は化学薬品、アスベスト関連、廃棄物処理法などについて重点的にチェックしました。

また、地域条例が法規制に先行するケースも多くなり、これらの条例や自治体との協定、商店会・家主との同意事項など、店舗ごとに順守すべき事項について、法規制と同じレベルでチェック項目を設定しています。

2005年度は法違反となるものはありませんでしたが、電気主任技術者や建築物環境衛生管理技術者など法的に資格が必要となる管理者の予備人員確保は継続的な課題であり、資格取得のサポートや業務委託先との連携などの改善を進めています。

ISO14001定期・移行審査報告

2006年1月に定期審査および移行審査を受審、環境マネジメントシステムが全店舗で維持管理されていることが確認されました。

審査実施日	2006年1月25日～1月27日		
審査機関	財団法人 日本品質保証機構		
審査対象	14サイト(10店舗、西武百貨店3部門、ミレニアムリテイリング1本部) トップマネジメント(社長)、環境管理責任者(店舗運営部長)		
審査結果	改善指摘事項カテゴリ-A (システムに関する手順の構築が欠落) = 0件 改善指摘事項カテゴリ-B (システムの一部に欠陥が存在) = 0件 改善の機会 (改善の検討を行うべきもの) = 14件 ストロングポイント (特筆すべき秀逸な事項) = 0件		



定期移行審査(東戸塚店)



定期移行審査(所沢店)

審査登録機関所見

今回は、昨年1月の更新審査(3年ごとに実施、当社は認証取得後、更新審査を2回受審)以降、最初の定期審査であると同時に、2004年改訂規格に則った運営がなされているかを確認する移行審査も兼ねて実施しました。

まず、認証取得から7年たち、更新審査も2回受審されているという経験もあって、環境マネジメントシステムは整備されており、審査に訪問した各店舗でも、環境管理委員会委員長である店長を筆頭に、現場の従業員一人ひとりが大変真摯に環境推進活動に取り組んでいる様子がうかがえました。

入店時の集合研修から週次の環境朝礼、年1回の「環境eラーニング」と定期的に実施され、また、環境・社会活動報告書や社内ホームページなどでも積極的に情報の共有化が図られています。

キーとなる環境管理委員会事務局を対象とした「内部環境審査員スキルアップ研修」で各自の知識のブラッシュアップが図られており、内部監査の有効性の向上に寄与するものと思われます。

昨年6月に残念ながら異臭事故が発生しました。今

回の審査では作業手順や保管場所、保管方法や緊急時対応などを、特に重点項目として審査しました。事故後の対応は迅速に行われ、ハード面・ソフト面の全面見直しを行い、是正処置及び予防処置を実施していました。また各店舗に水平展開を行い、各店舗では同様の改善が実施されていました。この事故を教訓として現場にも一層の緊張感が感じられました。

審査結果として、今回も改善指摘事項はありません。ただし、2004年規格改訂に伴う規程類の見直しやビルオーナーとの合意事項、実施していることの計画や記録への反映など、計14件の「改善の機会」が発見されました。

今後の活動として、省エネ・省資源等は進んでおり、大幅な削減は難しくなっていくでしょうから、維持するものは維持しながら、百貨店という事業特性を考慮し、本来業務を通して影響を及ぼすことができる環境側面の強化を図っていくことが、2004年規格改訂の趣旨からも重要と考えます。

財団法人日本品質保証機構(JQA)

担当:主任審査員 齊藤俊彦

環境にやさしい店舗づくりと店舗オペレーション

05年2月に「京都議定書」が発効し、CO₂をはじめとする温室効果ガスの国別削減目標の達成が義務づけられました。私たち西武百貨店でも外気冷房システムの導入など設備改善を進めるとともに、従業員一人ひとりが環境に配慮した行動をとることで、環境負荷の軽減に努めています。

従業員一人ひとりの“環境意識”の高まりと日々の行動で電気を大切に使いCO₂の排出を防いでいます

事務所や倉庫などの蛍光灯を個別スイッチに替え、使用時以外は消灯を徹底。バックヤードなどでは最低必要な場所のみ常灯し、その他の不要な蛍光灯は取り外すなど過剰照明をなくしています。

さらにエレベーターの使用を控え、商品移動以外は階段を利用する「2up3down運動」の実行。事務所、倉庫などで離席時の消灯を徹底。計画的な業務遂行による営業時間外送電の削減など、従業員一人ひとりの行動で電力使用量の低減に努めています。

また、設備面でも消費電力の少ない蛍光灯への切り替え、空調では気温に応じて外気を取り込むことのできる外気冷房システムの導入などを進めています。



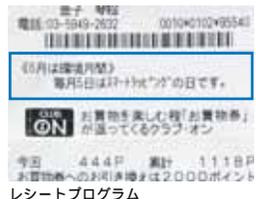
毎年6月に環境省が提唱するライトダウンキャンペーンに今年も本店で参加。そのほかにも当社の環境記念日4月9日にもライトダウンを実施。1回2時間で約1,000kwhの電力が削減されます(写真は池袋本店)

環境に配慮した店舗オペレーションを実現し環境にやさしいショッピングをお手伝いします

西武百貨店では、店舗のオペレーションでも環境に配慮した取り組みを行っています。

車両による環境負荷を低減するために、納品する商品を納品代行会社に一括集荷し、納品便を効率化する「納品代行システム」を積極的に推進しています。また、夜間・早朝納品、店舗では納品作業の30分ルールなど排気ガスや騒音の抑制に向けて様々な工夫と努力をしています。

ゴミの削減に向けては、商品の納品時に折りたたみ式のリターナブルコンテナを使用、衣料品のハ



ンガー納品は作業時間の短縮と同時にダンボールの削減にも役立っています。店内で発生した生ゴミは、生ゴミ処理機によりコンポスト(肥料)化を進めています。

販売オペレーションでは、百貨店業界全体で推進するスマートラッピング(簡易包装)に積極的に取り組み、お客さまのご理解とご協力をお願いしています。

また、環境商品のご紹介と合わせ、ご購入いただいた商品を未永くご使用いただくために靴やバッグ、宝飾品などの修理コーナー、衣料品のリフォームコーナーを設け、環境にやさしいお買物をサポートしています。

池袋本店の物流口



テナントお取引先との協業体制のもと、環境にやさしい複合商業施設をめざします

大型専門店などのテナントを導入した複合商業施設化を進めていくなかで、テナントお取引先と定期賃貸借契約を締結する際の規約に環境問題についての規定を設定。環境関連法規・条例、社内規程の順守はもとより、環境保全活動に関する教育への参加や従業員への周知徹底について確認しています。

月1回定例で行うテナント店長会では環境活動の情報交換を行い、新規入店者研修には環境メニューを組み込み、毎月全従業員向けに配信している「環境ニュース」にもテナントお取引先のためのテーマを設け、「環境意識」の向上に努めています。

壁面緑化・屋上庭園で店舗の緑化に取り組みます

西武百貨店では以前より店舗の緑化活動に取り組んでいます。

池袋本店では「垂直の森」という愛称で、店舗外壁の壁面緑化にいち早く取り組み、また船橋店では04年9月の店舗改装時に屋上に庭園をつくり、お客さまに四季折々の草花を楽しんでいただくと同時に、空気の浄化やヒートアイランド化防止などの環境改善効果も考慮しています。

「温室効果ガス」排出量削減に向けて多面的な取り組みにより温暖化対策を推進しています

西武百貨店は05年2月の京都議定書の発効に先立ち、03年度より04年度にかけ環境省主催で行われた「温室効果ガス排出量取引試行事業」に小売業を代表して参加。池袋本店をモデルに排出量の算定基準や排出枠の仮想取引などの事例研究を行って、排出量取引に関するノウハウを蓄積しました。また、日本百貨店協会主催の研究セミナーでも温暖化対策への取り組み事例を報告し、各分野の方々との情報交換をしています。

船橋店の屋上庭園



池袋本店の壁面緑化



環境にやさしい商品やライフスタイルの提案

日々お客さまと接点をもつ小売業として、独自の選定基準による「環境商品」をおすすめするほか、エコロジカルで快適な生活を実現するための商品や、ライフスタイル提案を行います。

「環境商品」の選定と品揃えに努め、店頭でお客さまにわかりやすくご提案

西武百貨店では独自の「環境商品選定基準」を設定。第三者機関が選定基準の適合性を検査し、合格した商品を「環境商品」として認定、表示しています。

現在「環境商品」は有機JAS認定商品の食品・ギフト商品を中心に137アイテム(2006年2月末現在)店頭では「グリーンアテンションカード」(西武百貨店のおすすめする環境に配慮した商品表示カード)を掲示して、その商品の選定理由を表記し、お客さまにご提案しています。

健康に気を配り、環境に配慮しながらおしゃれで自分らしい生き方にこだわる。そんなライフスタイルへの志向が高まるなか、売場で積極的に環境に配慮のある商品の品揃えに取り組んでいます。クールビズ、ウォームビズはもちろん、マイバッグに替わる風呂敷の活用なども提案しています。

西武百貨店がおすすめするオリジナル・エコロジーバッグ

西武百貨店では2000年6月からハンドバッグ売場と食品売場で「西武オリジナル・エコロジーバッグ」を販売しています。この「エコバッグ」はペットボトルのリサイクルから生まれる再生ポリエステルを使用、シンプルなデザインと機能性を重視し、お客さまの声を反映して改善も加えています。また、多くのお客さまからのご要望を受け、2002年9月に「保冷バッグ」を、2005年9月には保冷タイプのショッピングカートも導入しました。エコバッグの販売を通じて、お客さまのマイバッグご持参を推進していきます。

西武百貨店 / 環境商品選定基準	
原材料や生産工程が低負荷であるもの	
再生素材を使用しているもの	
再生可能な商品であるもの	
省資源・省エネ商品であるもの	
環境保全を促進するもの	
環境負荷に関する表示のあるもの	
環境保全に積極的な企業により製造された商品であるもの	



左上 / オーガニックコットンのタオルと、天然素材で作られたマットや石鹸
 右上 / 有機栽培された原材料にこだわった食品ギフト
 左下 / 日本の伝統文化が生んだ包装の知恵「風呂敷」は、マイバッグにもなる便利な商品として積極的にご紹介しています
 右下 / 優れた収納力と細かな機能が充実した保冷タイプのショッピングカートは、お客さまの声により誕生しました

近隣農家のご協力を得て、循環型の仕組みを構築。安全でおいしい食材をご提供しています

西武百貨店では地域の廃棄物処理の負担を軽減するとともに、循環型社会をめざして、池袋本店をはじめ4店舗に、店内で発生した生ゴミをコンポスト(肥料)にするための「生ゴミ処理機」を導入。「生ゴミ処理機」で再生したコンポスト(肥料)を近隣農家にご提供し、その肥料で生産された農産物を再び店頭で販売する資源循環型システムを推進しています。この取り組みは、「安全でおいしい」とお客さまから高い評価をいただいています。また、コンポストは定期的にお客さまにお配りもしています。



秋田店では毎月、定期的にコンポストをお客さまにお配りしています



所沢店の食品売場で販売されている、コンポストを使用した生産された季節の野菜



法人や団体のお客さまのニーズにお応えし、環境ビジネスにも積極的に取り組んでいます

西武百貨店法人外務部では、リサイクル商品の開発や環境関連商品の販売、さらに資源回収システムの構築まで、企業や団体のお客さまが直面する環境課題にトータルに対応し、コンサルティングを含む解決策をご提案しています。

法人外務部の環境ビジネス(例)

- リサイクル商品の開発・販売
- 生分解性プラスチック商品の開発・販売
- 非木材紙商品の開発・販売
- 省エネ・省資源商品の開発・販売
- 塩ビ代替商品の開発・販売
- 回収システムの構築 / コンサルティング

環境に配慮した商品の開発・販売

【包材・資材】

法人外務部ではギフトパッケージなどの包材・資材を扱っています。環境負荷の少ない



ファルカタを使用したギフトパッケージ

「ファルカタ(南洋桐)」は従来の木材に比べコストも安く、環境の視点からもおすすめできる商材です。

*ファルカタは木材ではなくマメ科の植物で、成長が早く森林伐採による環境破壊を起こしません。

【ユニフォーム】

ワーキング・サービスユニフォームの分野で、再生ポリエステルを使ったユニフォームが拡大しています。特に飲料会社や官公庁での採用が増加しています。

人にやさしい百貨店として

西武百貨店は盲導犬育成事業支援活動をはじめとする地域・社会貢献活動に積極的に取り組んでいます。

また、すべてのお客さまが安心安全にお買物を楽しんでいただけるよう、

設備のノーマライゼーションやサービスも充実させています。

盲導犬育成事業支援活動を推進

西武百貨店では「人にやさしい百貨店」として、盲導犬育成事業支援活動を推進しています。活動の一環として2004年9月より全店に募金箱を設置し、お客さまに募金のご協力をお願いしています。2005年度(2005年3月～2006年2月)にお客さまからお預かりした募金総額8,046,325円は店舗近隣7支援団体に



に寄付いたしました。

また、視覚障害者および盲導犬に対する理解促進を図るため、育成支援団体の協力を得て、「盲導犬ふれあいキャンペーン」を年に2回(春・秋)開催しています。このキャンペーンでは、訓練士によるデモンストレーションや実際に盲導犬を使用しているユーザーとのコミュニケーション、通常触れることのできない盲導犬とのふれあいなど、頭数が大きく不足している盲導犬の実状を知っていただくとともに、盲導犬をより身近に感じていただき、さらなる理解と協力の促進に努めています。

「補助犬ハンドブック」で従業員教育も徹底

お客さまへの理解促進のみならず、全従業員が「身体障害者補助犬法」や「補助犬」についての理解を深めるため、独自に「補助犬ハンドブック」を作成しています。障害をお持ちのお客さまや補助犬が店舗にご来店された際にも、適切な対応で快適にお買物をしていただけるよう教育を徹底しています。



「西武ワン! コイン倶楽部」の設立

2005年6月には、会社とミレニアムリテイリンググループ労働組合がそれぞれ拠出して「西武ミレニアム基金」を設立、同時に社員による募金制度「西武ワン! コイン倶楽部」が発足しました。

これは社員が希望口数の募金を毎月の給料から天引きする仕組みで、集まった募金は「西武ミレニアム基金」に繰り入れ、毎年基金から全国の盲導犬育成団体に寄付します。初年度の募集では全社員(パート型契約社員含む)の70%が参加。社員一人ひとりがこの活動を理解し、全社一体となって盲導犬育成事業を支援しています。

「みんなで集めようキャンペーン」で社員一人ひとりが社会貢献

各店舗・事業所では、社員食堂などにボックスを設置して収集ボランティア活動を実施しています。2005年度は古切手6,763g、使用済みプリペイドカード58,197枚を回収しました。収集した切手やカード等は財団法人ジョイセフに寄付をし、途上国での寄生虫予防や栄養改善などの生活改善支援に役立てています。

また、2005年度からアルミ缶のプルタブ回収を新たに追加し、集めたプルタブは車椅子の寄付に役立ちます。2005年9月には先行して活動していた筑波店が地元社会福祉協議会へ車椅子を3台寄贈しました。



みんなで集めようキャンペーン

全店舗のバリアフリー化に努めています

1999年に開店した東戸塚店と2000年に開店した岡崎店は、高齢者や障害をお持ちのお客さまにも利用しやすい建築基準を定めた「ハートビル法」にもとづいて設計・建築されています。西武百貨店ではこの2店舗だけでなく、既存店舗のバリアフリー化も順次進めており、2006年2月には福井店、3月には秋田店がリニューアルし、車椅子のお客さまやベビーカーでもスムーズに出入りできるスロープの設置や段差のないフロア設計など、施設の見直しと整備を行いました。これからもすべてのお客さまが安心して、安全にお買物を楽しんでいただけるよう、全店舗のバリアフリー化を進めてまいります。



東戸塚店入口に設置された介助者呼び出し用のインターホン



福井店スロープ「だるまロード」

「ハートフルアドバイザー」「コンシェルジュ」がお客さまのお買物をサポートします

「ハートフルアドバイザー」は財団法人総合健康推進財団が認定する民間資格で、高齢者や障害をお持ちのお客さまが来店された際の店内案内・移動の介助など、お買物のお手伝いをするための知識と技術を身につけています。西武百貨店では2001年からこの資格をめざす研修を実施し、すべてのお客さまに安心してお買物を楽しんでいただけるよう努めています(2006年4月現在311名)。

また、全店に配置されたコンシェルジュは店内の諸施設やサービスのご案内、お買物相談など、お客さま



一人ひとりのご要望に正確にお応えします(2006年4月現在82名)。



お客さまの安心安全を守るために

お客さまの安心安全に対する信頼に応えるために、さまざまな取り組みを継続しています。

防災訓練の定期的な実施

不特定多数のお客さまが入り、従業員数も多い百貨店は、地震や火災が発生した場合に被害が拡大する可能性があるため、店舗では「防災対策委員会」を設置して防犯防災計画を策定しています。自衛消防隊を組織し、万が一の場合にも適切な行動が取れるように定期的に消防訓練を実施。消防訓練には、店舗に勤務する従業員全員が年4回以上参加することが義務付けられています。繁忙期には、防犯・防災に関する点検を全店で実施します。

また、安心安全のために、避難導線の確保や安全管理点検など、日ごろから守るべきルールを定め、確実に実施しています。

避難導線の確保(安全な避難)
防火施設の管理(迅速な消火)
社員用後方施設の管理(不審者の排除)
喫煙ルール(場所と時間)の順守徹底
定時の安全確認点検



店舗での消防訓練および消火器訓練

個人情報管理の徹底

「個人情報保護法」を契機に、社会やお客さま一人ひとりの個人情報保護への関心は大きく高まりました。個人情報の取り扱いには企業への信頼に直結します。

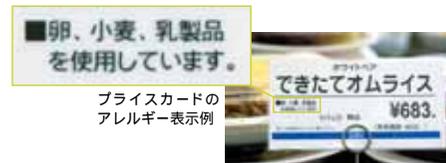
西武百貨店では全従業員に対し「個人情報保護方針(プライバシーポリシー)」と「個人情報保護ルール」を

徹底し、個人情報管理の重要性を常に意識させるとともに、ルールの徹底に努めています。ミレニアムリテイリング社および店舗には「情報セキュリティ委員会」を設置して課題があれば検討し、万が一問題が発生した場合には、すぐに適切な対応がとれるような仕組みづくりをしています。

安心安全を基本とした食の豊かさの提供

食に関するお客さまの関心は近年ますます高まり、産地や素材、製法などにわたって幅広く奥深く広がっています。特に品質や消費期限・賞味期限など「安心安全」を提供することは、小売業にとって必須の使命といえます。

そこで本部機能を持つミレニアムリテイリング社および各店舗に「商品適正表示委員会」を設置し、商品の適正表示に取り組んでいます。売場や厨房では商品添付ラベルや表示パネルの内容を毎日確認し、冷蔵庫や冷凍庫の温度管理も定時に実施、食品の衛生管理に努めています。



食品売場での冷蔵庫温度点検

従業員の働く環境

お客さまの信頼を支える従業員の意欲とやりがいも大切にしています。

社員のやる気とやりがいを引き出す人事制度

仕事への取り組みと成果を公正に評価し、公平に処遇する人事制度の整備に取り組んでいます。「目標管理制度」では半期ごとに本人と上司の話し合いにより目標を設定し、その結果の達成度を評価し処遇します。定期的な話し合いの中で実力の伸長や意欲、能力などを相互に確認し合うことによって、やりがいのある風土づくりを目指しています。

また、シューフィッターや衣料フィッター、ギフトアドバイザーなど様々な専門販売員を計画的に育成することで、社員の意欲に応え、キャリアアップをサポートし、顧客満足度の向上に寄与します。出産休暇・育児休暇、育児時間、介護休職、介護勤務など出産・育児・介護と仕事を両立させる制度は、現場の戦力であるパートナー社員まで対象を広げて充実を図っています。

男女共同参画優良企業として船橋市から市長賞を受けた船橋店



売場に掲示して専門販売員を紹介。左は造物のプロ「ギフトアドバイザー」

職場環境の改善に向けて

各店では毎月労使で「職場会議」を開催し、現場の声を反映した職場環境の改善に努めています。また、店舗では現場の課題に細かく対応できるように「労働安全衛生委員会」「社員食堂改善委員会」「時間有効活用委員会」など、様々な話し合いの機会を設定しています。

さらに「能力開発プロジェクト」で、現場の意見を反映させた研修機会の創出にも積極的に取り組んでいます。

東戸塚店では有志が集まって勉強し、色彩検定3級にチャレンジ、計15名が合格。さらに2級合格に向けて勉強中です。右は認定証



ハラスメント防止とイエローホイスル制度

経営の透明性を高めコンプライアンスの意識を徹底し、健全な企業体を維持するために、2004年より「イエローホイスル制度」をスタート。これは従業員が「おかしい」と思ったことを、第三者である社外の弁護士に直接通報できる制度です。従業員からの通報は実態調査のうえ、経営層に報告されます。また、ミレニアムリテイリング社内にも相談窓口を設けています。

さらに、「ハラスメントガイド」を新たに作成し、互いに人権を尊重し、働く人すべてが互いに良きパートナーとなる明るい職場づくりに取り組んでいます。

店舗の地域活動・社会貢献活動

各店舗がお客さまとともに環境問題を考え、地元の方々と取り組む地域活動をご紹介します。

お客さまとともに

池袋本店

東京都豊島区

「環境フェア」開催

06年4月5日～20日まで「環境フェア」を開催。1階中央口ではオーガニックコットンのベビー服やタオル、風呂敷やオリジナルエコバッグなど環境に配慮した商品を集積し、インデックスでお客さまに紹介しました。また、店頭でも新しいメッセージPOP「私にうれしい、地球にやさしい」で、環境に配慮した商品とライフスタイルを提案しました。コミュニケーションでは、風呂敷の包み方講座を開催したり、子どもフロアでは「エコキッズフェア」で環境について楽しく学ぶ機会を提供しました。



札幌店

北海道札幌市

「北海道ウォームビズ展ファッションセミナー」開催

05年11月20日、北海道環境サポートセンターで「ウォームビズファッションセミナー」を開催しました。これは北海道環境生活部より依頼があったもので、「あったかい」も「おしゃれ」もどちらも楽しみながら、環境のコトを考えてみませんか？をテーマに行われ、札幌店社員がウォームビズにおけるビジネススタイルの代表例を紹介しました。



所沢店

埼玉県所沢市

「ワルツ市民講座」開催

06年3月24日、所沢店がテナントとして入っている「ワルツ所沢」と所沢市、所沢店が協力し、企業と行政それぞれがもつノウハウを持ち寄って、地域の方々に「暮らしに役立つ生涯学習」を提案するための第1回「ワルツ市民講座」を開催。はじめに「所沢流エコな暮らし方」について市職員よりお話があり、その後、店舗運営部環境推進担当より「西武百貨店の取り組み」として「スマートラッピング」活動や「循環型商品」を紹介。最後に所沢店紳士・スポーツ課メンバーによる「2006年クールビズファッションショー」を開催。メッシュ素材のネクタイやポケットチーフなど、今年の夏の「クールビズファッション」のポイントを紹介しました。



八尾店

大阪府八尾市

「母の日リフォームファッションショー」開催

八尾店は06年5月に開店25周年を迎え、今後もますます地域のみなさまに身近なお店としてご利用いただけるよう、水時計の広場を提供しています。5月には八尾市女性団体連合会のご協力で「母の日リフォームファッションショー」を開催。古くなったリシミが付いた着物をリフォームした洋服を、ファッションショーで披露しました。なお、当日はご多忙の中、八尾市長も駆けつけてくださいました。



旭川店

北海道旭川市

「旭川市民1000人の大合唱」実施

05年9月11日、「第20回旭川市民1000人の大合唱」開催に協力しました。このイベントは当初、敬老の日のイベント「シルバーコーラス」としてスタートしましたが、昨年から市民の誰でも参加できるようにイベントスタイルを変更。今年は百樹会、老人大学の生徒や卒業生の方々が中心となって参加。80歳代の方をはじめ、たくさんの市民の方々が幅広く参加され、音楽の町・旭川にふさわしいイベントになりました。



富山店

富山県富山市

「お客さまへの感謝を込めて『思い出エッセイ集』発刊」

富山店では06年3月末の開店に際し、労使で記念のファイナルプロジェクトを立ち上げ、記念誌の発刊、CDの製作、思い出エッセイの募集・掲載など、地域のお客さまへの感謝と従業員の思い出作りに取り組みました。なかでも、地元北日本新聞社の協力を得て実現した「思い出エッセイ集」は、富山店をご愛顧いただいたお客さまからの温かいメッセージが綴られており、30年の思い出がたくさん詰められた宝物の一冊になりました。



外周清掃

高槻店

大阪府高槻市

「高槻市環境美化推進デー」参加

高槻市では市内の生活環境の向上と美化意識の高揚を図るため、春・秋の年2回、市民、団体、事業者との協働により、市内一斉清掃を実施しています。高槻店もこの美化活動に賛同し、駅北口の商業施設の一員として毎年参加しており、06年5月には春の推進デーに参加。きれいな街づくりに協力しています。



静岡店

静岡県静岡市

「紺屋町全域清掃」実施

静岡店では05年6月から毎月、地元紺屋町の全域清掃を実施しました。環境管理委員会メンバーにパートナー、ダリアスタッフの方々も毎回たくさん参加し、06年3月の閉店時まで継続しました。



大津店

滋賀県大津市

「お取引先との外周清掃」実施

開店以来、廃棄物処理を委託しているお取引先である(株)タケノウチ様、(株)マルヨネ様と共同で、毎月第2木曜日に大津店前の県道約1kmにかけて歩道植栽の除草・剪定を行っています。毎回20名体制で実施し、一度に出るゴミ袋は10袋以上。お取引先と一体となり、街の景観維持に貢献しています。





社会貢献

渋谷店

東京都渋谷区

「アースデイ東京2006」を懸垂幕で応援

06年4月22日、23日、東京の代々木公園を中心に「アースデイ東京2006」が開催されました。「アースデイ」とは、地球のことを考える日。広く環境保全や地球平和について活動しているNPO団体を中心に企画・運営された環境イベントです。



開催に際し、渋谷店では「アースデイは地球に感謝し、美しい地球を守る意識を共有する日です」というメッセージの懸垂幕をかけ、開催のPRに協力しました。

有楽町店

東京都千代田区

「ピンクリボンキャンペーン」に参加

05年10月、丸の内地区で実施された「ピンクリボンキャンペーン」に参加しました。ピンクリボンは、乳がんの早期発見・早期診断・早期治療の大切さを伝えるシンボルマークで、丸の内地区全体で期間中様々なイベントやセミナーが開催されました。有楽町マリオンでも柱巻をピンクリボンにデコレーションし、シンポジウムを開催。有楽町店では期間中、従業員全員がピンクリボンバッジを胸に付けました。また、06年5月の母の日には、ジョイセフの「ホワイトリボンキャンペーン」(途上国の妊産婦の命と健康を守る国際運動)のトークショーも開催しました。



また、06年5月の母の日には、ジョイセフの「ホワイトリボンキャンペーン」(途上国の妊産婦の命と健康を守る国際運動)のトークショーも開催しました。

岡崎店

愛知県岡崎市

「愛の募金 - 米山寮に寄付」

西武百貨店では賞与支給時に労使合同で「愛の募金」活動を行っており、岡崎店では05年12月、児童養護施設「米山寮(プティヴィラージュ)」に寄付を行いました。米山寮は、諸事情により親御さんと暮らすことができない子どもたちが職員と生活をしている、いわばもうひとつの家。岡崎店では「愛の募金」から子どもたちの大好きなお寿司やケーキ、チョコレートなどをプレゼントし、残りの金額を寄付。子どもたちと一緒にクリスマスパーティーを行い、楽しいひとときを過ごしました。



秋田店

秋田県秋田市

「秋田市立旭川小学校エコツアー」実施

05年11月14日、秋田市立旭川小学校の生徒18名を招き、エコツアーを実施。はじめに西武百貨店の環境に対する取り組みについて紹介し、その後、館内を見学。環境商品や簡易包装の重要性について、またエコステーションではリサイクル機器について説明。生徒さんからはたくさんの質問があり、環境に対する関心・理解が深まりました。



福井店

福井県福井市

「かしこいお買物体験隊」実施

福井県では「かしこいお買物体験隊」を推進しており、その一環として実施している「かしこいお買物体験隊」に05年8月19日、福井店が協力。親子連れの2組5名のお客さまに食品売場で「かしこいお買物体験」をしていただきました。食品売場係長がバラ売りや計り売り、小パック販売などについて説明し、「福井くらしの会」のメンバーが産地やトレーサビリティに関する見方や確認の仕方などをレクチャーしました。



船橋店

千葉県船橋市

「校外学習受け入れ」実施

船橋店では地元小・中学校、高校、養護学校の体験学習に協力しています。05年度は7校の受け入れを実施。生徒さんたちは実際に洋菓子売場でお菓子作りを体験したり、ペットショップで犬の世話をするなど、職業体験を通して仕事の大切さや楽しさ、大変さなどを知り、また人と人とのふれあいを学んでいただきました。体験学習を終えた生徒さんたちからは、当日のレポートをまとめた小冊子とお礼のお手紙を頂戴しました。



東戸塚店

神奈川県横浜市

「平成17年度戸塚区環境行動賞」「ヨコハマはG30」推進功労者賞」受賞

横浜市では「ヨコハマはG30」と称して、平成22年度のゴミ排出量を、平成13年度に対して30%減らすという目標を立て、運動を推進しています。東戸塚店では日ごから地域の美化推進、ゴミの資源化・減量化に取り組んでいるとして「推進功労者賞」を受賞。06年2月9日、戸塚公会堂にて表彰式が行われ、戸塚区長より表彰状をいただきました。



沼津店

静岡県沼津市

「駅前ロータリー花壇」植え替え実施

耐震工事後のリニューアルオープンを機に05年8月より沼津市から管理運営を任されている駅前ロータリー花壇に、12月9日、冬の花(ピオラ)を植え替えました。植え替えに際して購入した花の苗、土、肥料は、すべて従業員による「花いっぱい募金」でまかなわれました。また、花壇の年間維持に向けて、花壇への水撒きを毎日行っています。お客さまからもロータリーが明るくなったとお声を頂戴し、活動の励みとなっています。



筑波店

茨城県つくば市

「つくばセンター広場花壇作り」参加

つくば市では、市民共同によるまちづくりの一環として「花と緑の市民参加事業」を展開しています。2005年8月にはつくばエクスプレスが開業し、つくばセンター広場の花壇作りが盛大に実施されました。2006年5月には、春の花への植え替えの時期となり、今回は市民やボランティア団体、企業や学校を含む約200人が参加。筑波店もこれに参加し、花壇の清掃と春の花への植え替えを実施しました。

